JICA 教師海外研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	上園雄太	学校名	千葉県 野田市立　七光台小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	６年（２６名×３クラス）
実践年月日もしくは期間（時数）		２０１９年９月　　～　１２月（６時間）	

【実践概要】

1.　実践する教科・領域：総合的な学習の時間・社会科・道徳・外国語

2. 単元(活動・主題)名：

総合的な活動の時間：国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。

社会科：世界の未来と日本の役割

道徳：世界の人々のために　【Ｃ－１６　国際理解，国際親善】

外国語：What do you want to be ？

3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標

授業テーマ：

「国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。」

単元目標：

・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか調べることができる。

（知識及び技能）

・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え，表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）

・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか進んで調べようとしたり，考えようとしたりしている。（学びに向かう力、人間性等）

関連する学習指導要領上の目標：

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

4. 単元の評価規準	①知識及び技能	・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか，また，自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを調べることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか自分ごととして捉え，表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	・国際協力について，何が必要でどのような活動ができるのか，また，自分の将来の夢においてどのようなつながりがあるのかを進んで調べようとしたり，考えようとしたりしている。

5．単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】 近年，日本は多国籍化が進んでおり，私の勤務する学校でも外国から移住してきた児童が年々増えてきている。これからの日本を生きる子どもたちに必要な力は，異文化への理解を深め，広い視野をもち，お互いの良さを認め合い伸ばし合い，協力する力であり，国際理解教育／開発教育は重要なそのために必要な教育であると考えている。 【単元の意義】 新学習指導要領で国際理解についての項目を参照したところ，多くの教科・領域で取り扱われていることがわかった。（３．関連する学習指導要領上の目標　を参照）今回の単元では，第６学年で教科横断的に国際理解教育について扱った際の学習効果や，今後，本校で国際理解教育を根付かせていくために，どのような教材が適切であるかを検証していく。 【児童／生徒観】 本校の第６学年の児童は，明るく素直で，授業中に積極的に挙手をして発言する児童もいる。また，夏休み前に学年で集めて将来の夢についてアンケートを取った際には，様々な業種の職業を書いており，自分の好きなこと，やりたいことへの関心も高いといえる。しかしながら，国際理解に関しては，「大事である」と答えた児童が多い反面JICAやSDGｓに関して知っている児童が少なく，知識が乏しい。また，自分の将来の夢と国際社会との関連性を意識できている児童も少なく，「国際協力」と聞くと自分達にできることは「募金」だと認識している児童が多くいる。今回は，総合的な学習の時間，社会科，道徳，外国語と教科横断的に「国際協力のために自分達ができることは何だろうか」というテーマで，「国際協力」が将来の職業と関連があり，自分ごととして考えることができることに気付かせたい。 【指導観】 本単元では，「国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。」というテーマを４つの教科・領域に関連させながら授業を行っていく。「国際協力」と聞くと自分とは関係のないことだと考えてしまいがちである。しかし，SDGｓという視点から考えたり，実際に青年海外協力隊の隊員と交流したり，途上国であるザンビアの小学生の１日を動画で視聴したりすることを通して，自分ごととして考える意識をもたせたい。その際に「目標達成シート」と振り返りカードを活用することで，毎回の授業における児童の「国際協力」に関する考えの変容を追っていく。 また，「目標達成シート」は書き進めていくほど，より具体的な行動となるような作りになっている。そしてその具体的な行動が「自分の仕事」とどのような関連があるのかを調べることで，将来的に自分の行動がどのように国際社会に結びついているのかを意識することができるようになると考えている。

6. 単元計画（全６時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	国際協力のために自分達は何ができるのだろうか。 （総合的な学習の時間） ９月	・ザンビアについて，どのような生活をしているか関心をもち，SDGｓについて知る。	・教員の体験談を聞き，将来の夢について考える単元目標について知る。 ・教員のザンビアでの体験談やザンビアに住む人々のインタビュー動画視聴を通じて，国際協力のために必要なこと，また，自分達にできることについて考える。	・PPT 資料１ ・ザンビア現地小学校でのインタビュー動画 ・振り返りシート ・目標達成シート
2	What do you want to be? （外国語） １０月	・ザンビアの孤児院でのインタビュー視聴を通して，自分の将来の夢をどのように英語で表現していくのか，興味・関心をもつ。	・ンサンサ孤児院でのインタビュー動画から，どのような内容を話しているのか想像する。 ・What do you want to be? I want to be ～. という表現を使ったチャンツを行う。 ・ンサンサ孤児院を運営するムタレ夫人へのインタビュー動画から，将来の仕事についての考えを話し合う。 ・今回の学習を通して，国際協力のために必要なこと，また，自分達にできることについて考える。	・振り返りシート ・目標達成シート ・ンサンサ孤児院でのインタビュー動画 ・ンサンサ孤児院を運営するムタレ夫人へのインタビュー動画

課外	モンゼタウン小・中学校交流 青年海外協力隊安藤先生へのインタビュー	・ザンビアの小学校の子ども達とテレビ電話を通じて交流する。	・お互いの国の挨拶や歌を交流し，互いの文化について理解する。 ・青年海外協力隊の活動について，インタビューを通して学習する。	・振り返りシート ・目標達成シート ・タブレットＰＣ ・大型ＴＶ
3 本時	ザンビアのヘルスセンターで （道徳 C-16,17 国際理解,国際親善） １１月	・日本人としての自覚や誇りをもち，進んで他国の人々とつながり，国際親善に努めようとする態度を養う。	・ザンビアのシマクトゥヘルスセンターで働く別府さんのインタビュー動画を視聴して，感想を話し合う。 ・うまくいかないときにどんなことを感じるのか，それをどう乗り越えて，夢に向かって，また，これからの国際協力のために働いていくのか考える。	・振り返りシート ・目標達成シート ・シマクトゥヘルスセンターでのインタビュー動画
4 ～6	世界の未来と日本の役割 （社会） １２月	・日本の国際交流や国際協力について関心をもつ ・SDGｓに関連して，国際協力のために自分たちができることはどんなことかを考える。	・世界の環境問題や紛争問題とその対策組織について知る。 ・『未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK』を活用して，日本の問題についての質問づくりを行う。 ・SDGｓカードを使ったダイヤモンドランキングを作成し，それぞれの目標のつながりや重要性について考える。 ・目標達成シートを確認して，自分ごととして国際協力のためにどんなことができるのか話し合う。	・振り返りシート ・目標達成シート ・『未来の授業 私たちの SDGs 探究 BOOK』（宣伝会議） ・SDGｓカード

7．本時の展開（３時間目）

本時のねらい：日本人としての自覚や誇りをもち，進んで他国の人々とつながり，国際親善に努めようとする態度を養う。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 （５分）	１　総合的な学習の時間での学習を振り返り，国際協力で日本がどんなことを行っているのか予想する。 ○日本が行っている国際協力活動にはどんなものがあるでしょうか。	・前時の内容を思い出せるよう，資料を黒板に貼る。 ・今回の学習では「国際協力のために自分達にできることは何か」を考えることを伝える。	日本の支援を示す写真
	２　教材を知る ・シマクトゥヘルスセンターでの別府隊員へのインタビュー動画を視聴する。 ・前半を振り返る	・別府さんの気持ちになって視聴するよう助言する。	PPT 資料 （ビデオ）

展開 （32分）	3　教材「シマクトゥヘルスセンターでの別府隊員へのインタビュー」について話し合う。	・メモを取らせながら視聴させる。	インタビューメモシート
	◎なぜ別府さんは「いや，それは違う。間違っている」と言われながらも活動を続けることができたのでしょうか。		
		・全体での意見交換が活発になるよう，小グループでの話し合いを行う。	
	○日本で学んできたことを「いや，それは違う。間違っている」と言われ時，別府さんはどのように思ったでしょうか。		
	4　今回の学習で考えたことを書く。	・できるだけ全員に発表させ，様々な道徳的価値に触れられるようにする。	
	○今回の学習で考えたことは何ですか？		
	学習の感想（感想カード） 国際協力のために自分達ができること （目標達成シート） ・別府さんへのメッセージになることも伝える。 ・児童の記述を見て回り，感想を把握する。	・批判に負けない努力があるという視点の意見も大切にしていく。 ・目標達成シートを書き進めることで，国際協力のためにできることを，自分ごととして考えさせる。(赤鉛筆で記述)	感想カード 目標達成シート
終末 （8分）	5　振り返りを共有し，国際協力について考えていく大切さについて深めていく。 6　別府さんから子どもたちへのメッセージ動画を視聴する。	・国際協力することの大切さについて深められるようにする。 ・一人一人が考えたことが大事であることを伝える。	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

・国際協力の大切さについて，どうして大切にしなければいけないのか，互いの意見を尊重しながら話し合うことができる。（発言内容・記述内容）

・国際協力のためにできることについて，自分ごととして考えることができる。（発言内容・記述内容）

参考資料：

・『たった一つを変えるだけ　クラスも教師も自立する「質問づくり」』（新評論）ダン・ロススタイン著　吉田信一郎訳

・JICA 東京から頂いた青年海外協力隊に関する資料

・SDG s を学べる教材一覧

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/sdgs.html

9. 学習方法及び外部との連携

今回の海外研修では，シマクトゥヘルスセンターの別府隊員とモンゼタウン小・中学校の安藤隊員と連絡を取り合い，別府隊員に関してはインタビュー動画の教材化，安藤隊員に関してはザンビアの小学生の１日の動画提供と，ビデオ通話による児童同士の通話の機会の提供をお願いした。

別府隊員のインタビュー動画に関しては，インタビューの内容を派遣前に決めておきインタビューしたものを PPT 形式に編集した。スライドごとに質問内容と動画を張り付けることで，次の授業者が活用する際に編集しやすくなるようにした。現地の隊員に直接ザンビアの現状や派遣における苦労などを動画で視聴できたことで，教科書で読むだけではなかなか関心をもつことができない児童にも議論に参加させることができた。

安藤隊員とモンゼタウン小・中学校との交流に関しては，海外研修でお会いした際に学校で行う授業や欲しい資料について相談して協力して頂いた。ザンビアについて知る際に，動画に拘ることで実際の音や映像など様々な感覚から情報を与えたいと考えた。直接ネット通話でつながる際には，学校のタブレット端末に Skype をダウンロードして行った。時差が７時間あるため，こちらの小学校の６校時がザンビアの朝７時～８時であったが何とか実施することができた。この体験は児童の印象にも強く残ったようで，感想にこの活動について書いた児童が多くいた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

まず，海外研修の報告を職員打ち合わせで行った。研修の内容から今後の授業展開までを説明し理解を得ることができた。実践に関しては学校の業務改善の視点を大切にしながら「持続可能な」国際理解・開発教育を推進していくという想いで進めていった。

既存の教育課程に関して追加していくのではなく，今回の経験をスライドして入れられるように単元構成を考えていった。道徳の授業展開では，今回の指導案を事前に配布し，協議会を行った。さらに，当日に招いた JICA 職員に海外研修や国際理解教育に関する情報提供をしていただき，国際理解・開発教育への共通理解を図った。

PTA との連携では，図書の環境ボランティアにお願いし，高学年図書室にザンビアコーナーを設置したり，SDG s コーナーを職員室前の廊下に作成したりした。

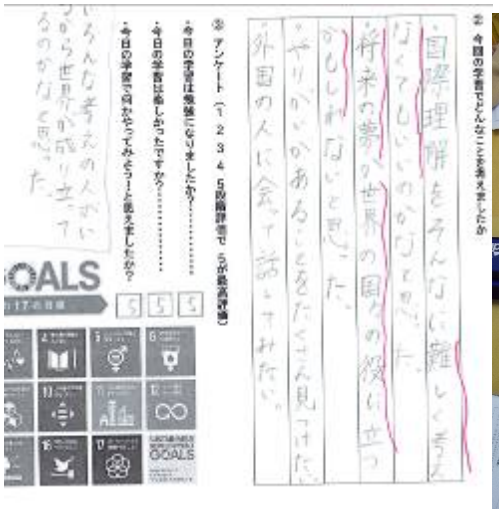
外部への国際理解・開発教育の発信に関しては，まだ踏み込むことができていないので，ここを今後どう展開していくのかが重要になる。ただし，これに関しても周りの職員の理解を得ながら計画的に進めなければいけない。無理に進めると崩れるのも早く，持続していかない。ただ，歩みを進めることを辞めなければ，必ず成果はでると考えている。

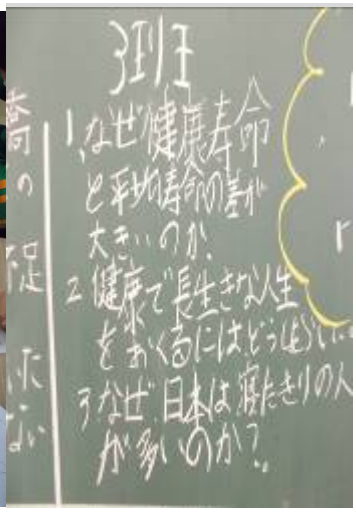
【自己評価】

11. 苦労した点	今回，時数としては全６時間で教科横断的に行った。国際理解・開発教育とキャリア教育の視点で行ってきたが，やはり授業時数の確保をもう少し大胆に行ってもよいと感じた。感想の中で「自分も何かやってみたい」「～～をもっと調べてみたい」というものがあったが，それに応える時間と余裕が必要だった。

12. 改善点	教科横断的に，単発でも実施できる形で教材を準備することができた。まだまだ改善が必要ではあるが，ぜひたくさんの方に実践してほしいと考えている。ただし，単発でも成立する形式であるが故に，単元全体で児童の伸びしろに応える時間を確保することも考えていかなければいけないと感じた。
13. 成果が出た点	まず，既存の教科書の内容に取って代わる形で教材制作できたことが大きかった。公開授業後も次年度に同じ教材で授業したいという反応が職員から得ることができた。また，今回の経験から，次年度教科横断的な国際理解・開発教育の教育課程の編成に，学校全体で取り組んでいくきっかけを作ることができた。 道徳の協議会では，生の映像がとてもよかったという意見だけでなく，内容項目を「希望と勇気・努力と強い意志」としたり，焦点を「『国際』は要らない」や「長く住むほど国際協力がわからなくなる」にあてたりするという方向性が出た。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	児童の客観→主観（自分ごとへの変容） ・国は協力しないとダメなんだなって思いました。（１時） →着られなくなった服はシマムラに持っていくとどこかの国に送ってくれる。（３時） ・世界には困っている人がたくさんいることが分かった（１時） →自分ももし仕事に就いた時は，その国の文化に合わせたことができるといいなと思った。日本の文化も伝えたい。 ・大変で，自分達よりかわいそう。国債について考えた。（１時） →その国なりの文化を守っていくことが大切だと思った。１７の目標で一つでも達成できるようにしたい。
15. 授業者による自由記述	海外研修での一番の収穫は，クサいかもしれないが熱い想いをもった仲間との出会いである。今までうっすらと思っていた「国際協力のために何かをしたい」という想いが日々の業務の中で忙殺されてしまう中，同じ想いをもった校種の様々な教員とこういった事業にチャレンジできたことは，今後の自分にとって大きな財産となった。教務主任という立場で自分の学級がない中，教務主任だからこそいろいろな学年にアプローチでき，教育課程の編成に大胆に関わることができたと感じている。そして，この研修を終えたことはまだスタート地点であり，ここから「自分が何をどう持続していくのか」を大切にしていきたいと考えている。

↓児童の感想（道徳）



↓SDGｓダイヤモンドランキング

↓質問づくり